

第 12 回全国少林寺拳法指導者研修会

令和 6 年 9 月 14 日～16 日 日本武道館研修センター



最終日の演武発表。椅子を用いて、個人に合わせた形で誰もが参加できることを表現したグループ

第 12 回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館・少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁）が 9 月 14 日～16 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催された。

研修会は少林寺拳法の授業力向上と指導法の習得を目指し、全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資することを目的とし、中学校の保健体育科教員のほか、小学校・高等学校教員、少林寺拳法の授業に協力する地域指導者、教員を目指す大学生など全国から 48 名が集まって行われた。

◆ 1 日目（9 月 14 日）

最初の「中学校武道（少林寺拳法）授業で伝えたいこと」では、^{なかじまさき}中島正樹講師が、武道を知らない中学生に何を教え、伝えるかについて講義した。授業では「技を身に付けるためにどう向き合って努力したか」に目的があること、経験の浅い教師は自分もできない弱みを「生徒と目的を共有して共に取り組む」という強みに変えられること、少林寺拳法の教えや技は令和の日本型教育にも合うものであること、部活動や道院での指導と異なる

のは「指導と評価の一体化」にあること、3 日間の研修は教育として保健体育科以外の教科にも応用できることなどの話が展開された。

続く「少林寺拳法のエッセンス」では、^{むらさあきひろ}村瀬晃啓助講師の指導により、少林寺拳法の礼法を実践した後、基本となる技を確認した。

^{なかむらゆういち}中村優一講師による講義・実技「主体的・対話的で深い学び」は、授業の導入と、情報収集・共有の実践例を紹介した。導入としては身体の使い方により感覚が変化する体験ができるものや、体・心ほぐしとなるもの、情報収集・共有としては「ジグソー法」を使った活動を行った。

最後に振り返りとして、^{やすだとしゆき}安田智幸講師の進行のもと、グループに分かれて講義・実技を受けた感想や意見を交換し合い、代表者がグループでの発言内容を発表した。

◆ 2 日目（9 月 15 日）

午前中は、^{おいひさし}小井寿史講師による「基本となる技 2」で開始した。技の評価実習として、まずは何もない状態で小手抜の演武の評価を行い、次に評価

シートを使って採点。評価シートにより評価のポイントが示されることで採点がしやすくなり、評価のばらつきも小さくなることを実感させた。そのうえで、ゴール（何ができれば良いのか）が明確になることで生徒は練習に取り組みやすくモチベーションが高まる、教師は評価について生徒に説明しやすく生徒もなぜそのような評価になったか理解しやすいと話した。

「特別支援学校の授業の体験」は桑島亜紀くわじまあき講師が担当し、特別支援学校だけの話として捉えず「インクルーシブとは何か」という観点で聞いてほしいとスタート。障害とは「違う感じ方・捉え方の人もいることにより不具合・不適合が生じている状態」であり、理解と環境調整で生活しやすくなると説明したうえで、特別支援学校で行っている導入を紹介した。

振り返りを行って午前中は終了し、午後は小井講師の「声のかけ方・かかわり方」で始まった。教育の目的は「いい集団」を創ること、その集団の形成者を育成することであり（教育基本法第1条）、そのために必要な資質が教育基本法第2条に示されているとした。そのほとんどは数値では測定できない「非認知能力」であり、それを養うため教師・指導者には何が求められるか、講義を行った。

次は、横山駿太よこやましゅんた講師による模擬授業「生徒の可能性を引き出す授業」が行われた。横山講師は昨



評価実習として、グループで技の評価ポイントを検討する

年の本研修会に初心者として参加し、同年度中に勤務中学校で少林寺拳法授業を開始した。今回は受講者が生徒となり、実際に行われている授業を体験した。特定の状況下での合理的な体の使い方を生徒自身に考えさせて少林寺拳法の技に繋げる、技のコツを考えて全体で共有する、攻撃に対してどう反撃するのが良いかグループで考えるなど、生徒が自ら考えることを多く取り入れた授業が展開された。

続いて村瀬講師が「安全管理について」の講義を行い、施設や用具の点検、中学校という体格などの差が大きい集団で技を行うにあたっての注意点を説明し、各種ハラスメント対策としては常識の更新を行うことが必要と話した。

2日目最後の実習「授業づくり(グループ活動)」では、中島講師指導のもと、研修会のまとめとして最終日に行う演武発表に向けた演武組成を6～7名ずつのグループに分かれて行った。技、技のポイント、ゴール、評価基準、想定される動きを話し合い、ホワイトボードにまとめた後、練習に取り組んだ。各グループでは活発に意見を交換し合い、練習と修正を繰り返して演武を完成させていった。

最後に午後の振り返りを行い、この日の研修は終了した。

◆ 3日目 (9月16日)

2日目に構成を検討した演武の発表が行われた。グループごとに、代表者がホワイトボードにまとめた演武内容を説明した後、全員で演武を披露した。少人数から大人数へと展開していく構成、技名を全員で声に出しながら皆が動けるようにする演武、どんな状況の人にも合わせることができる優しさを表現する演武など、グループごとに独創性ある演武が発表された。それぞれの発表の後には中島講師から講評として、良かった点、工夫されていた点のフィードバックがなされた。

この日も振り返りを行った後、閉講式があり、研修会の全日程が終了した。